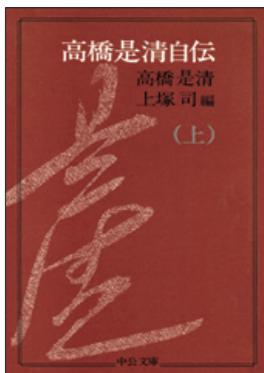


# 書籍紹介



高橋 是清 著  
上塚 司 編  
中央公論新社 刊  
1976年1月発行  
定価:上巻760円 下巻700円

## 「高橋是清自伝」

今年2010年は、特許制度が公布されてちょうど125周年の年にあたり、特許庁においても産業財産権制度125周年記念事業が行われています。この制度の創設に取り組み、初代特許局長を務めた人物が高橋是清であることは、産業財産権制度に携わった方であればご存じだと思いますが、では高橋是清が何歳の頃どういった経緯でこの制度の創設に関わり、特許局長時代に具体的にどのような事を行ったのかご存知の方は少ないのではないのでしょうか。また、高橋是清が波瀾万丈の人生を歩んだことは比較的名有ですが、その内容についてはあまり知られていないように思われます。

今回ご紹介する書籍「高橋是清自伝」は、是清の日記や手帳などの資料と是清の口述を基に手記者の上塚司が書き起こした是清の自叙伝です。上下巻からなり、是清の幼少期から日露戦争時に日銀副総裁として外債募集を成功させる53歳の頃までの内容となっています。是清が歴史の表舞台に登場するのは大蔵大臣に就任して以降ですから、本書は是清の知られざる波瀾万丈の人生を綴った内容といえます。ちなみに産業財産権制度の創設に関する内容は上巻に記載されています。本書に関して特筆すべきことは、様々な出来事の内容や経緯が実に詳細に記述されていることです。本書の冒頭には昭和11年1月にまとめられたとあり、是清は昭和11年2月26日に暗殺されましたので、本書は晩年の80代の頃に作られたと思われまふ。それにも関わらず幼少期から50代までの出来事をこれほど詳細に描くことができたのは、是清があらゆる記録を具に残す大変な几帳面さと抜群の記憶力を持ち合わせていたからだといえるでしょう。

産業財産権制度に携わった内容の一部をご紹介します。

是清は、紆余曲折を経て1881年(明治14年)、28歳の時に農商務省に入省し、商標条例と専売特許条例の制定に

取り掛かります。まず商標条例の作成から始め、商標と暖簾の混同の問題などを解決して、1884年(明治17年)に商標条例は制定されます。この時、是清は初代商標登録所長となります。続いて専売特許条例の作成に取り組み、明治4年の発明専売略規則の失敗に基づく反対論を抑えて、1885年(明治18年)に専売特許条例が制定されます。是清は初代専売特許所長を兼務することになります。この条例が公布されると、当時制度取調局長官であった伊藤博文が、農商務卿の西郷従道に、「この法律は今度始めて我が国に施行せらるる甚だむつかしいものであるから、よろしく主任者を欧米に派遣して取調べをなさしむるよういたしましたし」と通牒します。是清自身も日本における商標登録専売特許の制度の確立と組織の完璧を期するために海外先進国の制度研究に意欲を燃やし、米、英、仏及び独へと視察に発ちます。この欧米視察でのエピソードはいずれも大変興味深いものであり、当時の欧米諸国における産業財産権制度の運用のみならず、弁理士の職務内容や諸外国における日本人の活動までも窺い知ることができます。

帰朝後、是清は新しい商標条例、特許条例及び意匠条例の起案に取り掛かり、特許の有効性の裁判に関する議論等を決着させ、1888年(明治21年)に旧法を廃して、前記三条例が制定されることとなります。さらに是清は前記三条例の起案と同時に農商務省内の専売特許局を特許局として独立させる運動に奮闘します。このエピソードからは、是清が特許局を農商務省から建物として独立させるだけでなく、米国の特許特別会計を参考に、会計においても独立させたいと考えていた様子が窺えます。そして是清のこの思いは、実におよそ100年後の1984年(昭和59年)によりやく果されることになるわけです。

是清はその後様々な逆境を乗り越え、最終的に内閣総理大臣に上り詰めます。ところで、今年弁理士である菅直人氏が内閣総理大臣に就任しましたが、産業財産権制度に精通し、財務大臣(大蔵大臣)から内閣総理大臣に就任した経緯が是清と似ているとみるのは少々無理があるでしょうか。産業財産権制度を記念する年に、この制度の専門家が内閣総理大臣に就任したことも大変面白い出来事であると思います。余談はさておき、今年は産業財産権制度の歴史を振り返る機会の多い年といえますが、この機にこの制度の創設に取り組んだ人物の人生を覗いてみてはいかがでしょうか。本書はまさにそのうってつけの一冊といえるでしょう。

紹介者 特許審査第三部 プラスチック工学 常見 優